

第2学年〇組 国語科学習指導案

三郷市立北中学校 桑島 敦

I 実践の背景

1 実践における「三つの柱」の在り方

ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）

◎主張と根拠の関係、根拠の確かさを捉えるための「三角ロジック」を習得する。

イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）

◎「三角ロジック」を用いて文章を読み、主張と根拠の関係、根拠の確かさを分析する。

◎埼玉県統計資料からわかることをまとめた文章の交流を通して、他者の考えやその根拠、考えの道筋などを自分の考えと比べながら読むことができる。

ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

◎一人一人が考えた「埼玉県の未来」を読み、身近な社会の在り方を考える。

◎「三角ロジック」をディベートなどの学習や日常での生活に生かしていく。

2 実践に関わる新学習指導要領指導事項

【知識及び技能】(p.79¹)

●意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。(2) ア

第1学年の学習を踏まえて、意見と根拠の関係を理解するとともに、判断や考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解することが求められる。

指導に当たっては、(中略)「C 読むこと」の(1)「ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物との設定の仕方などを捉えること。」「オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。」などの関連を図ることが考えられる。

【思考・判断・表現力等】(pp.99-102)

●文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物との設定の仕方などを捉えること。(C 読むこと ア)

主として説明的な文章において、文章中に示されている具体例と、書き手の主張との関係を考えながら内容を把握することが求められる。

●文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。(C 読むこと オ)

関連する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。読み手がもつ知識や経験は一人一人異なることから、どのような知識や経験などと結び付けるかによって、同じ文章を読んでも考えは多様なものとなることが考えられる。その上での、他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと対比したりすることが、物事に対する新たな視点をもつことにつながり、自分の考えを広げたり深めたりすることになる。

¹ 文部科学省、『中学校学習指導要領解説 国語編』、2017年

Ⅱ 単元について

1 教材

『モアイは語る―地球の未来』（第2学年 光村図書）

「平成28年度 グラフで見る彩の国さいたま」（埼玉県発行）

2 単元の目標

◎文章を読み、身近な社会の在り方と結び付けて考えようとしている。（学びに向かう力）

◎筆者の主張を支える根拠の在り方を理解することができる。（知識及び技能）

◎「三角ロジック」を使い、筆者の主張を支える根拠やその確かさを捉えながら文章の内容を把握することができる。（思・判・表「読むこと ア」）

◎埼玉県の統計資料から埼玉県未来への考えをもち、互いに交流しながら、他者の考えやその根拠、考えの道筋などを捉えることができる。（思・判・表「読むこと オ」）

3 評価規準

	ア 学びに向かう力	イ 知識及び技能	ウ 思考力・判断力・表現力等 「読むこと」
単元 の 評価 規 準	・文章を読み、身近な社会の在り方と結び付けて考えようとしている。	・筆者の主張を支える根拠の在り方を理解している。	(ア)「三角ロジック」を使い、筆者の主張を支える根拠やその確かさを捉えながら文章の内容を把握している。 (イ) 埼玉県の統計資料から埼玉県未来への考えをもち、互いに交流しながら、他者の考えやその根拠、考えの道筋などを捉えることができる。
学習活動に即した評価規準	①自分の身近な社会と関連付けた感想を書いている。 ②筆者の主張を自分たちの生活に近づけて考えている。 ③埼玉県の統計資料を分析し、埼玉県未来を考えている。	①「三角ロジック」における「主張」「事実」「理由づけ」の違いを理解している。	(ア)①「主張」「事実」「理由づけ」により文章を分析し、筆者の主張につながる「根拠」の確かさを捉えている。 (ア)②「三角ロジック」を用いて筆者の主張を文章にまとめている。 (オ)①統計資料を「事実」、埼玉県未来を「主張」とし、根拠となる「理由づけ」を明らかにしている。 (オ)②互いの文章を読み比べ、根拠や考えの道筋について意見を述べ合っている。

4 単元・教材について

本教材文はイースター島のモアイに関するいくつかの謎について、事実をもとに筆者の考え（主張）が述べられている。しかし、中には飛躍した内容の部分もある。そのような論理の飛躍した部分における「隠された前提」を読み取り、筆者が示す「主張」とそれを支える「根拠」の関係を捉えるために、「事実」「主張」「理由づけ」の3つの要素で物事を思考する「三角ロジック」の手法を取り入れる。

「三角ロジック」とは、イギリスの哲学者スティーブン・トゥルミンが提唱した議論分析のためのモデル「トゥルミンモデル」を基にした「主張」「事実」「理由づけ」の3つの要素による論理モデルである（図1）²。トゥルミンは、議論の強さを「6つの基本要素」³から分析しており、それらを単純化したものとして、一般に「三角ロジック」と言われている。

本教材文における筆者の論理の飛躍した部分とはこの「理由づけ」がない、もしくは不足した部分であり、「事実」と「主張」に分類した上で、それをどのように結び付けているのかをとらえることで、「理由づけ」の内容を読み取ることができる。科学的な発見や調査結果にもとづく「事実」と、そこから導き出された「主張」を「理由づけ」によって結びつけることで、筆者が述べている主張と根拠を捉え、内容を論理的に、また批判的に読み取っていききたい。

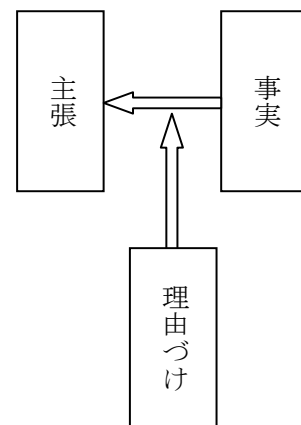


図1 三角ロジック

また、本文で述べられているイースター島の文明崩壊は、自分たちの身近な社会に置き換えて考えることができるので、論理的に読み取った文章の内容を、身近な社会の在り方と結び付けて考えられるようにする。その際、「平成28年度 グラフで見る彩の国さいたま」（埼玉県発行）を用いて、埼玉県の衣食住に関する様々な統計資料を「事実」とし、そこから予想される埼玉県の未来を「主張」に位置付け、「主張」に結び付く道筋である「理由づけ」を明らかにした文章にまとめさせる。本文の内容を身近な社会と結び付けるとともに、筆者の主張と根拠の関係を分析するために用いた「三角ロジック」の学習を活用させるようにしていく。

5 指導と評価の計画

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○三角ロジックについて知る。 ・「食べに行きたいラーメン屋」 ○三角ロジックを使ってみる。 ・「靴のセールスマンの話」 ○三角ロジックを使って文章を分析する。 ・「自転車も免許制が必要では」（架空の投書）	○主張と根拠の関係 ○「事実」「主張」「理由づけ」という3つの要素 ○「主張」と「理由づけ」の関係 ○「事実」「主張」「理由づけ」による分析の仕方	イ①
2	○「モアイは語る」の範読を聞き、感想を記入する。 ○筆者が示す問いの文を見つける。 ○「モアイの秘密」として3つにまとめる。 ①膨大な数の巨像を誰が作ったのか。 ②大きなモアイ像をどうやって運ん	○文章の論理的な理解 ○筆者が述べる内容への疑問、感想の持ち方 ○文末表現への気付き ○筆者の意見につながる具体例の読み取り	ア①

² 鶴田清司・河野順子、『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 中学校編』，明治図書，2014年，p.21

³ 同上書，p.20

6つの基本要素は、主張（Claim）・事実（Data）・理由づけ（Warrant）・裏づけ（Backing）・限定（Qualifiers）・反証（Rebuttal）である。

	だのか。 ③モアイを作った文明はどうなってしまったのか。 ○モアイの秘密①を検討する。 ・なぜその「主張」ができるかを考える。 ・モアイの秘密①に対する筆者の主張に反論する。	○「理由づけ」による補完 ○根拠の確かさ	ウ(ア)①
3	○モアイの秘密②を検討する。 ・「事実」「主張」「理由づけ」の3つの内容をとらえる。 ・モアイの秘密②に対する筆者の主張に反論する。 ○モアイの秘密③を検討する。 ・どのような流れで文明が崩壊したのかをまとめる。	○事実と意見の分類 ○出来事の関係性	ウ(ア)①
4	○文章全体における筆者の主張をとらえる。 ・習熟度別の課題 レベルA ヒントなし レベルB キーワード レベルC 考える柱 レベルD 穴埋め ○主に結論部分をまとめる。	○筆者の論理の展開 ○「事実」「主張」「理由づけ」の関係	ア② ウ(ア)②
	絶海の孤島イースター島は、森林資源の枯渇によって文明が崩壊した。森林は文明を守る生命線なのである。広大な宇宙にぽっかり浮かぶ地球の森林を破壊し尽くしたとき、その先にあるのはイースター島と同じ飢餓地獄である。とするならば、私たちは、今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。		
5	○統計資料「グラフで見る彩の国さいたま」を踏まえて、「私は語る一埼玉県の未来」を書く。	○「事実」→統計データ ○「主張」→埼玉県の未来 ○「理由づけ」→なぜそう言えるか	ア③ ウ(オ)②
6	○「私は語る一埼玉県の未来」を観点に沿って評価し合う。 ・「主張」が明確に書かれているか。 ・「主張」の内容に適した資料（「事実」＝データ）を引用しているか。 ・「事実」から「主張」につながる、適切な「理由づけ」になっているか。 ・論の展開に矛盾がないか。※誤字脱字はないか。 ○評価を受けて感想を記入する。 ○単元のまとめを行う。	○観点による文章の評価 ○他者の考えの根拠、道筋 ○身近な社会の在り方	ア③ ウ(オ)②

別添資料 授業の使用したワークシート等

学習プリント① 「食べに行きたいラーメン屋さん」

- ・「事実」「主張」「理由づけ」という3つの要素を知る。
- ・「理由づけ」が説得力をもたせるために重要であることを確認する。

鶏だしのコクあるスープに トリチカラオイル

※特製白トコロのメンマ

※特製つめ込み

純和風だしとタタキの奥深い味わいを堪能

※ひのでラーメン

※はまぐりラーメン

食材が本来もつ 素朴な味わいを引き出した味

※中辛とらふろ

※ベジタブル

緻密な計算で仕上げた 鶏と魚介の淡麗スープ

※特製湯葉らめ

※全部のせ塩らめ

☆「三角ロジック」・・・事実と主張を結びつけ、主張に説得力をもたせる方法

主張
理由
事実

「体によさしいがモットー」と書いてあり、ラーメンといえば体に悪いイメージだけど、「体によさしい」ラーメンなら体のことを気にせず食べられるそうだからです。

国語学習プリント「モアイは語るー地球の未来」

みんながラーメンを食べに行くことになりました。雑誌からいくつかに絞り、決めます。自分が食べたいラーメン屋さんに行けるように、みんなを説得しましょう。

※特典や価格などのサービス面は考えないこととします。

選んだ場所

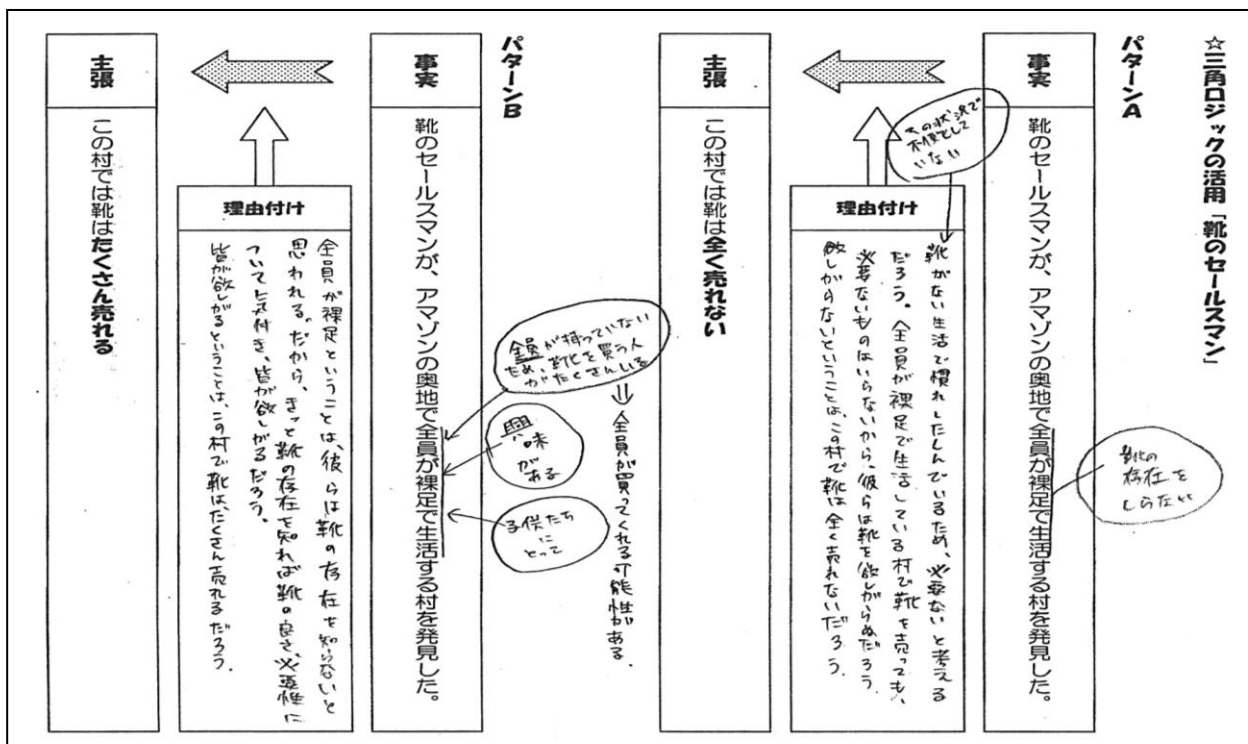
理由

私バ「豊」を選んだ理由は、体にやさしいがモットーと書いてあり、体によさしいラーメンといえ、あまり体に良くないイメージですが、体にやさしいラーメンなら、体のことを気にせず食べられるそうだからです。

学習プリント 2

「三角ロジックを使ってみる」(靴のセールスマンの話)

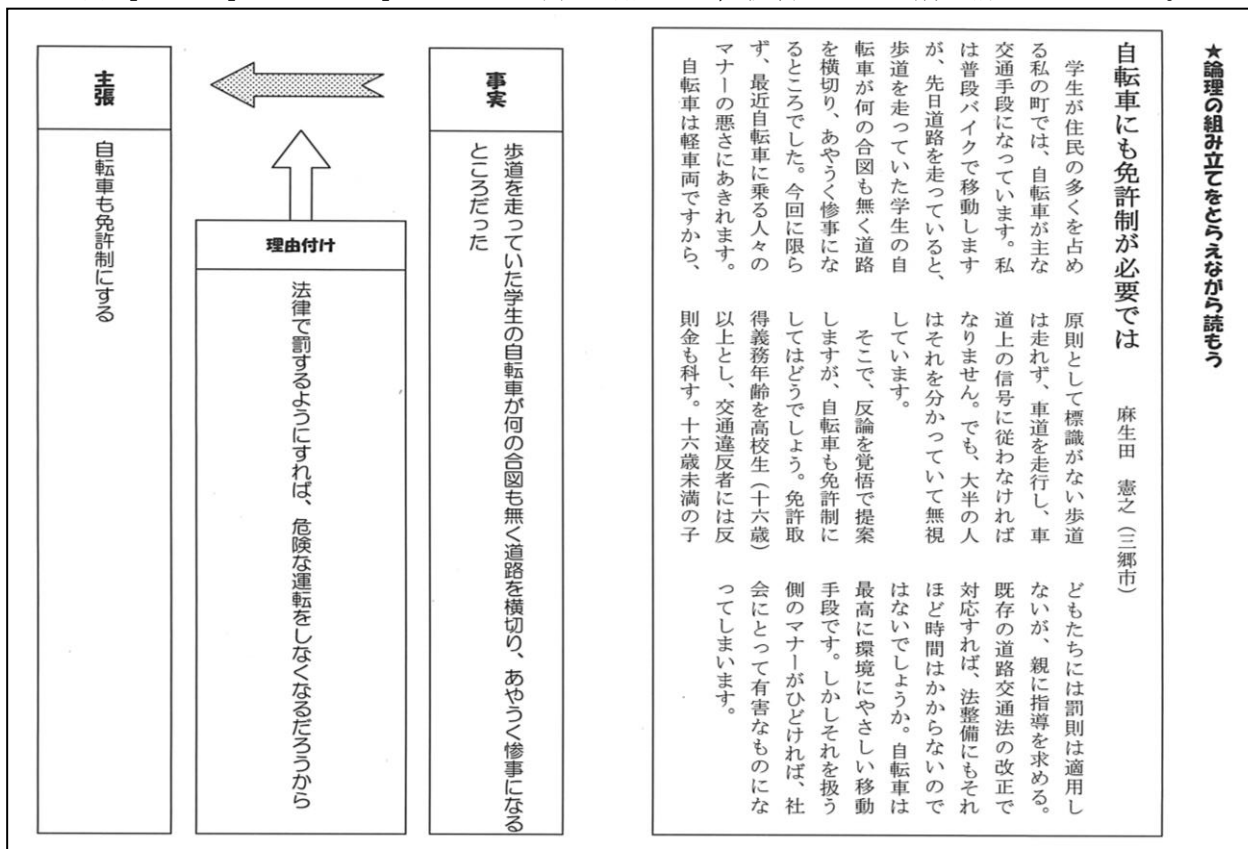
- ・ 同じ「事実」でも「理由づけ」によって正反対の主張ができることから、「理由づけ」が主張の方向性を決めることを知る。



学習プリント 3

「三角ロジックを使って理解する」(自転車も免許制が必要では)

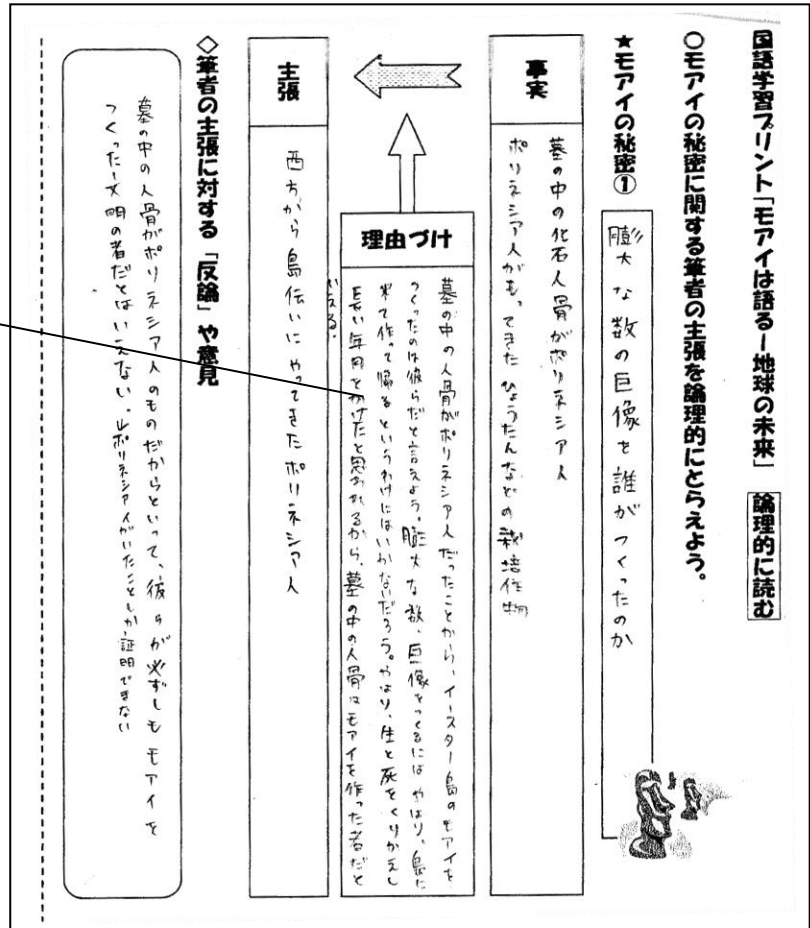
- ・「事実」「主張」「理由づけ」の3つの要素を活用して、投書における論理構造をとらえる。



学習プリント 4 「モアイの秘密①を検討する」

- ・「三角ロジック」を用いて、筆者の主張における論理の不十分な点を考える。
- ・本文中で述べられていない「理由づけ」を明らかにすることで 論旨を捉える。

墓の中の人骨がポリネシア人だったことから、イースター島のモアイをつくったのは彼らだと言えよう。膨大な数、巨像をつくるには、やはり島に来て作って帰るというわけにはいかないだろう。やはり、生と死をくりかえし長い年月をかけたと思われるから、墓の中の人骨は、モアイを作った者だといえる。



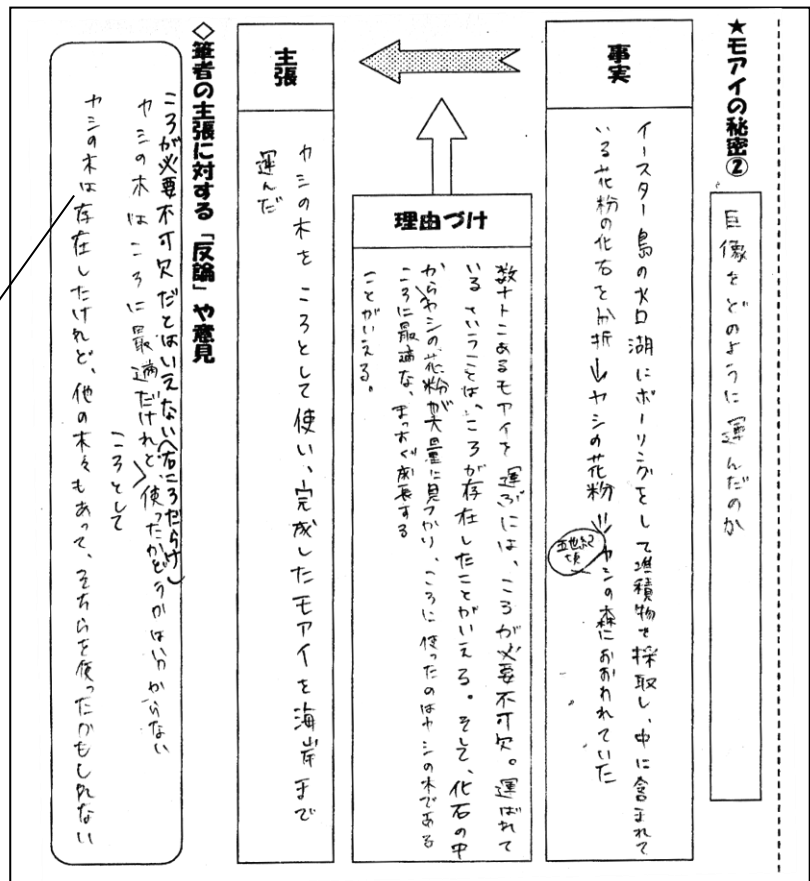
学習プリント⑤ 「モアイの秘密②を検討する」

- ・本文中に示された内容を「事実」「主張」「理由づけ」の3つにわけてとらえる。
- ・モアイの秘密②に関する筆者の主張（意見）に反論する。

ころが必要不可欠とはいえない（石ころだらけ）

ヤシの木はころに最適だけど、ころとして使ったかどうかは分からない

ヤシの木は存在したけれど、他の木々もあつて、そちらを使つたかもしれない



学習プリント 6 「文章全体における筆者の主張をとらえる」

- ・「事実」＋「理由づけ」＋「主張」の組み合わせにより、文章全体の筆者の主張としてまとめることができる。
- ・まとめる範囲が広がるので、レベル別に課題を用意することで、学習への動機づけを図る。

国語学習プリント「モアイは語る―地球の未来」

筆者の主張

◎三角ロジックを活用して、文章全体の筆者の主張をまとめよう

事実

イースター島では、森林資源が枯渇し、島の住民が飢餓に直面したとき、どこからか食料を運んでくることで、文明が崩壊した。

理由付け

森林は文明を守る生命線。イースター島と地球で生活できる人口は八十億がギリギリで、超えたら食料不足、資源の不足が恒常化する危険性が大きい。地球にある森林を破壊したとき、地球はイースター島のように飢餓地獄になってしまう。

主張

今あるこの有限の資源をできるだけ効率よく長期にわたって利用する方法を考へるべき。それが人類の生き延びる道。

★筆者の主張

イースター島は、森林の消滅によって島の住民は飢餓に直面し、どこからか食料を運んでくることで文明が崩壊してしまっ。森林は文明を守る生命線なのである。このまま、地球の人口が増え続け、八十億を超え、地球にある森林がなくなるとき、地球は飢餓地獄になってしまう。私たちは今ある資源を効率よく、長期にわたって利用する方法を考へなければいけない。それが人類の生き延びる道なのだ。

学習プリント 7 「ワタシが語る埼玉県未来」

- ・三角ロジックで意見文の柱を立てる。

国語学習プリント「モアイは語る―地球の未来」

意見文を書く

☆平成二十八年度「グラフで見る彩の国さいたま」を踏まえて、「埼玉県の未来」を論じよう！

事実

埼玉県の年間の死亡率が出生率を上回っている。人口ピラミッドから、年少人口（0～14歳）が少なく、逆に五十五歳以上の年齢層は全体的に人口が多くなっている。

理由づけ

高齢者が死せし、生産年齢人口の減少から出生率も上がらない。人口の減少を防ぐために、高齢者を病气から守る必要があると思おうから。

主張

医療技術の向上を急ぎ、大きな病院をつくるべき。

- ・三角ロジックで立てた柱をもとに意見文を書く。

「ワタシは語るー埼玉県の未来」

執筆者 二年

テーマ

埼玉県民を守るために



©埼玉県 2005

貴方は今の埼玉県の現状を知っているだろうか。平和で豊かな埼玉県の裏側で何が起きているのか、グラフを思いながら話していこうと思う。

まず注目してほしいのは、年間の出生率と死亡率の推移を表したグラフである。それを見ると、平成二十四年、死亡率が出生率を上回ったことが示されている。平成二十七年にはその差が約1%まで入さくなっている。なぜ死亡率は上がったのか、それを示しているのが県の人口ピラミッドの様子だ。これを見ると年少人口（0～14歳）が少なくなり、逆に五十五歳以上の年齢層の人口が多くなっていることが分かる。死亡率の高い高齢者の人口が増えているのだ。人口の減少を防ぎ、埼玉県民を守るためには、高齢者を病气ヤケから守る必要がある。そのためには医療技術の向上を促し、埼玉県に大きな病院をつくることの必要性を重視していかなければならないのだ。